

若狭湾水中散歩

20

京大水産 実験所 益田 玲爾

エチゼンクラゲ

エチゼンクラゲが新種として初めて報告されたのは一九二〇年のことである。沿岸のミズクラゲがおそらく有史以来人類に認知され、かの「枕草子」にも登場するのに対し、エチゼンクラゲはもともと人類との接点の少ない珍しい種類であった。その本種が一九五八年、九五年に大発生し、二〇〇〇年以降は毎年のように大挙して現れています。漁師さんたちを困らせている。定置網に入つたら重くて揚がらないし、ク

ラゲに刺された魚は体温が上がり、痛みやすいから、すぐに氷で冷やさないといけない。なんだか漁師さんにも魚にも同情してしまいます。

1年で直径1メートルにまで成長

エチゼンクラゲは中国の揚子江河口付近で生まれ、対馬暖流に乗つて日本海へやつてくると考えられている。ミズクラゲが内湾で一生を終えるのとは対照的だ。我が国沿岸の開発が進むにつれてミズクラゲの大増殖が問

ゼンクラゲの大発生も中國の沿岸域の工業化と関連があるので、との指摘もある。

生まれたときは一ミリで、成長したときには一ミリに満たないものが、一年以内で直径一メートルにまで成長する。まるまる太っていった。

エチゼンクラゲを利用

するというからすごい。その間、動物プランクトンや小さな魚等を大量に食べているのだろう。魚たちの餌をうばい、そして魚を食うとしたら、海の資源に与える影響はますます深刻だ。弱ったクラゲはしばしば、魚にかじられてい。特にカワハギの類はクラゲを好んで食べるようで、この写真を撮ったときも、近くで残骸となつたクラゲをむさぼり食うカワハギは

する方法については模索されており、食用に加工する技術も開発されている。でも今のところ加工のコストが高く、よほど皆でがんばって食べないと、動物プランクトンや小さな魚等を大量に食べているのだろう。魚たちの餌をうばい、そして魚を食うとしたら、海の資源に与える影響はますます深刻だ。弱ったクラゲはしばしば、魚にかじられてい。特にカワハギの類はクラゲを好んで食べるようで、この写真を撮ったときも、近くで残骸となつたクラゲをむさぼり食うカワハギはする方法については模索されており、食用に加工する技術も開発されている。でも今のところ加工のコストが高く、よほど皆でがんばって食べないと、動物プランクトンや小さな魚等を大量に食べているのだろう。魚たちの餌をうばい、そして魚を食うとしたら、海の資源に与える影響はますます深刻だ。弱ったクラゲはしばしば、魚にかじられてい。特にカワハギの類はクラゲを好んで食べるようで、この写真を撮ったときも、近くで残骸となつたクラゲをむさぼり食うカワハギは



越前町長須浜の水深2メートルで撮影した
直径約1メートルのエチゼンクラゲ

